

⑦ 江ノ島日帰り旅行の思い出



江ノ島みやげの包装紙。当時はカメラもなく思い出の写真はなし

昨年十月半ば、恒例の菱の実会親睦旅行に参加させて頂き、同じ工場で働き、苦楽を共にした人達と旧交を温めることが出来ました。そこで、約半世紀前の昭和三十七年三菱電機群馬製作所がまだ菱電機器尾島工場だった頃、工場の全職場一緒にバスを連ねて江ノ島へ日帰り旅行に行つた時の事を当時の日記をもとに思い出してみました。

昭和三十七年六月十一日(月曜日)大雨。今日は、昨日との振り替え休日、菱電機器(株)尾島工場の江ノ島方面への日帰り旅行である。

明け方、納屋のトタン屋根の雨音の激しさに目覚める。突然、母から今日はどしやぶりの大雨だが行くんかいと声がかかる。母は、午前四時に起きて準備をしてくれているという。とにかく行くしかないねと母に送られ、傘差し自転車で五時半に家を出た。太田駅まで三キロほどのバスの県道は大きな水溜りがあつた。ここに出来て車が通るたびに雨水を引

つ掛けられる。駅前の自転車預り所へ到着した頃は、ズボンの裾はびしょびしよに濡れていた。

私は、送迎バスの乗車場所のひとつである太田駅前で乗車し、乗り換え場所の高林まで仮乗車した。

高林にて各方面よりのバスが一斉集合し、職場毎の指定されたバスに乗り換える。観光バスの総数は二十五台、その内の一台は予備の空バスだった。バスの両側面には三菱家電品と書かれた宣伝幕が取り付けられ三菱家庭電

器製品の大宣伝部隊のようだった。東武観光では、観光バスの台数が多

いため一箇所の営業所では調達できず、あちこちの営業所からかき集めたそうです。その証拠に、埼玉、栃木、そして茨城ナンバーまであった。

私達の工具職場のバスは館林営業所から来たそうで、滝口勝美さんという美人バスガイドさんが笑顔で迎えてくれた。工具工場は二十歳前後の若い独身男性ばかりの職場のため、女性には日課事務の二人だけ。そこで、幹事さんにせつかくの旅行なんだから第三工場の女性たちを呼んでもらえないかと交渉したが、そりゃ駄目だといわれ皆がっかりして落胆のうめき声。そうこうしているうち、幹事さんの員数確認が始まると大ブーイング発生で騒然となる。

こんなハプニングもあつたが無事員数チェックも終わりジャスト七時に

発となる。出発と同時に幹事さんの一通りの挨拶があり、詰め合わせのお菓子が配られる。車中では、バスガイドさんが一生懸命、「吉見百穴」などの名所旧跡の案内をしてきているが全く反応無しの状態。というのは、先ほど配られたお菓子が口に入っているからでなく、おそらく女性達を呼んでもらえなかつたので、鬱状態なんだろうと推察した？

「えのしまへるすせんたー」(片瀬海岸)行きの行程は、熊谷↓東松山↓川越↓狭山ドライブイン(トイレタイムは八時半〜九時まで。観光バスが多くて交替制)↓八王子↓藤沢↓「えのしまへるすせんたー」着十一時半。雨降り

は相変わらず横殴り状態だった。到着早々、「へるすせんたー」内は余りの大勢が押しかけたために大々混乱。教育係の米沢主査、大声を出して指示しているがてんでこ舞い状態で、やつこのことで昼食にありつける。

昼食後、このまま「へるすせんたー」にいてもつまらないので、仲間と外へ遊びに出た。しかし、相変わらず雨降りが激しいので、ズボンを膝までたくしあげ裸足で片瀬海岸の砂浜へ一直線。ザザザと寄せては返す波に、足もとの砂が洗われ、くすぐつたいようなその感触がなんとも気持ち良かった。そして、江ノ島橋(通行料金五円)を渡り島内へ。以前は木製の橋だったがコンクリート永久橋に付け替えられていた。

道路の両端はお土産店が軒を連ねているが、この大雨とシーズンオフのせいか閉まっている店が多かった。

江ノ島の頂上までエスカレーター(料金四十円)で登る。高台から見えるのは鉛色の空と海ばかり。島の東端では、再来年開かれる東京オリンピックの、ヨットハーバーの埋め立て工事が着々と進んでいるようす。それから、江ノ島弁天、読売平和塔、熱帯植物園など見て歩いた。裸足でびちゃびちゃと歩く姿をみて、他の観光客が物珍しそうな顔をして見ていた。皆まで歩けば恥ずかしいのである。散策中工具管理の荻野係長に出合ったら、たい勢してなんやーその格好ー！と驚いていた。今日はこの格好がもつとも活発に動いて気持ちいいと逆に薦めた。

島内を歩きつくしてセンターに戻り(二時半)、親父の好きな羊羹をお土産に買って三時帰路に着いた。

帰路、車窓よりみえる砂防林の松の緑が雨に洗われ、青い海とマッチしてすごく綺麗だった。バスの車中では日課事務の白石嬢がかわいい声で歌い出した。車内がようやく元気になった。途中米軍横田基地近くのドライブインで休憩し高林で各方面行きのバスに乗り換え太田駅着は七時四十分だった。

雨にたたられ散々な日帰り旅行だったが、全職場の一斉旅行はこれが最後となり翌年から職場ごとに旅行を実施することになった。